第3次若狭町地域福祉活動計画 平成28年度評価

第3次若狭町地域福祉活動計画の評価については、計画書(18ページ)にあるとおり、住民や行政をはじめとする各関連機関、関係団体等からなる「評価委員会」を設置して進捗状況の把握と確認および見直しをすることになっています。

評価委員会は会長から委嘱された 7 名の委員、プロジェクト委員会は職員で構成した 11 名の委員により進めてきました。

評価委員会は2回、プロジェクト委員会は5回開催し、評価方法や評価対象 者等について検討し、以下の評価結果となりました。

今後は評価から見えた課題について、担い手等へつなぎその対策や実行案について検討していきたいと思います。

活動計画の認知度について

(聞き取り数 延べ101名 内、関係機関・団体・企業など31団体)

- 1. この計画があることを知っている ・・・・63.8% (指標:60%)
- 2. この計画の内容を知っている ・ ・・31.9% (指標:40%)
- 3. この計画の4つの基本目標を知っている・・26.6%(指標:30%)

意見な

・表紙は見たことがあるが内容までというと覚えていない

- ・ダイジェスト版がまだあったような。
- ・良いことを載せているのだから PR をもっとしよう
- ・誰もが見れる場所に置いているが見ている様子はない
- この計画を初めて知りました。
- ・中身まで知っているのは計画に関わった当事者や職員くらいでは?
- ・計画は知らないが中身を見ると普段していることもある。

考察

- ・地域福祉活動計画の存在はなんとなく分かっていても、中身までは知らない人が多い。
- ・中身を知ると、普段の暮らしの中でしていることも多い。
- ・触れる機会も少なく、浸透していない。
- ・高齢者・子ども世代は知らない。

≪次年度以降の課題など≫

課題

- ・2 年目以降も活動計画に基づき事業をしていることを PR する。
- ・例えばインパクトのあるポスターを作り、町民の目にふれる 場所にはってもらってはどうか?

具体的な取り組み 28年度評価結果一覧

3	1-1	住民同士の伝達手段の仕組みづくり	36. 4%
4	1)-2	広報活動の充実	66. 7%
5	2 -3	身近な支え合い体制づくり	57.4%
6	2-4	地元で子育てできる環境づくり	41.3%
7	2 -5	笑顔で集える場づくり	47.7%
8	3-6	人と人との出会いの支援	22.2%
9	3-7	ボランティア活動の活性化	56.4%
10	3-8	障がい者就労支援ネットワークの強化	47.1%
11	3-9	地域の社会資源を活かしたネットワークづくり	26.5%
12	3-10	伝統行事の継承	72.4%
13	4 -11	障がい者についての理解	36.8%
14	4 -12	充実した送迎体制づくり	38.9%
15	4 -13	食を通じた支え合い	32.0%
16	4 -14	地域における医療・介護・保健の充実	42.1%
17	4 -15	生活困難者への支援体制づくり	48.0%
18	4 -16	高齢者の生きがいづくり	54. 2%
19	4 -17	小地域活動の活性化	40.0%
20	<u>4</u> -18	災害に備えた環境づくり	77. 3%

記入日 H29.7.18

基本目標 1. 知りたい情報を伝え合う

取り組み 1. 住民同士の伝達手段の仕組みづくり

具体的な取り組み

- ■住民同士で情報共有ができる関係づくり
- ■高齢者や障がいがある方のそれぞれの特性に合わせた情報伝達の仕組み づくり
- ■情報発信を担うボランティアの育成

- ・必要な情報より世間話程度。
- ・共有というと分からないが狭い範囲での話になると思う。
- ・常会の場などで集落の情報は話して共有している。
- ・情報共有ができているという実感はあまりない。
- 手話放送のように健常者も障がい者にもわかる仕組みというのはすぐには難しい。
- ボランティアの実感がない。

		《考察》	
		・隣近所での付き合いや情報交換はしている。	
宇		・誰もが分かる情報を流したり、共有したりといっ	
実感度	36.4%	たことは、実感としては少ないが世間話程度はして	
度	·	いる様子。	
		・自然災害の増加により、不安なことについては話	
		している。	
	≪次年度以	降の課題など≫	
	・情報交換や共有のできる機会を増やすこと。		
課題	・得た情報を伝えていくために、地域住民のつながりを強化する		
/625	こと。		

記入日 H29.7.18

基本目標 1. 知りたい情報を伝え合う

取り組み 2. 広報活動の充実

具体的な取り組み

- ■伝えたい人に分かりやすく伝える手段の見直し
- ■地域が必要としている情報を常に把握し、旬で最新の情報を提供する
- ■広報やホームページの宣伝・PR

・工夫され広報誌は見やすく、読みやすくなってきた。・事業の内容や業務中の様子も分かると、より理解してもらえるのでは。

・行事の報告が多く、告知を増やしたいと思う。

- 検索がもっと分かりやすいといい。
- ・個々に必要な情報は多岐にわたり、すべての PR は難しい面がある。
- ・関心度によって興味ない人には伝わらない。もっと派手な PR も検討してはどうか。
- ・若者は画面上、ある程度歳のいった人は紙面上の情報など上手 に使い分けるといいのでは。

実感度	66.7%	≪考察≫・広報誌は写真が多くなり読みやすくなったと感じてもらっている。・イベント告知など広報は多くのメディアを通じて充実していると感じている。・募集や告知欄を増やすなど掲載情報を工夫する。
課題	≪次年度以降の課題など≫ ・発信しても伝える側が不十分だと間違って伝わる可能性があることから、いかに正確に伝えてもらえるか。 ・さまざまな情報を SNS や CATV などを駆使し、いかにタイムリーに流せるか。	

記入日 H29.7.18

具体的な取り組み

- ■子どもから高齢者までの住民同士の交流
- ■ご近所同士の見守り活動の充実

意見など

- ・敬老会など決まった行事以外に交流できる企画を考えている。
- ・子どもから高齢者までとはいうものの、子どもがいない。
- ・全員を対象にというとなかなか・・。
- 災害時支援は自主防災組織で考えられている。
- ・普段の支え合いは、区役員や福祉関係者以外の住民に必要性を 理解してもらわないと厳しい現実。
- ・今後とも福祉懇談会を充実させ、福祉関係者と相談しながら検 討していきたい。

《考察》 ・福祉関係者において見守り等充実していると感じ ているが、福祉関係者と住民との考え方に差があ るように思う。 実感度 ・保育所や学校関係は地域の人に支えられていると 57.4% 実感している。 ・交流できる機会はそれぞれあるものの、普段から の交流は少ない。 ・見守りといったことは、住民の理解が必要不可欠 である。 ≪次年度以降の課題など≫ ・地域づくり協議会などを中心にして、交流できる場を創出して 課題 いくこと。 ・懇談会等の場において福祉関係者だけでなく、多方面からの参 加も求めるなど、支え合いの住民理解を深めること。

記入日 H29.7.18

基本目標 2. 笑顔あふれる地域をつくる

取り組み 4. 地元で子育てできる環境づくり

具体的な取り組み

意見など

- ■子育て中の親が安心して働ける環境づくり
- ■子どもたちが安全に過ごせる環境づくり

・急な病気や子どものイベントなど、柔軟に対応しているが組まれているシフトによっては交代など厳しい面もある。 ・祖父母と同居、あるいは近所にいて、預けることができる。 ・夏休みなど公民館を解放し、地域の高齢者がイベントを企画し子ども同士で勉強したり食事をしたりしている。 ・すくすくやにこにこ学級をしている。 ・このテーマに合っていないかもしれないが、今の子たちはいろいろ規制され寄り道で学ぶ機会が減った。 ・不審者増えてきた印象。学校からのメールがありがたい。 ・見守り隊が朝夕活動している。(昔はこんなことなかったのに)・国道もあり子どもたちが安全にという場所に立地していない。

実感度	41.3%	≪考察≫・子ども見守り隊が各集落で活発。・会社ではある程度子どもに関して柔軟に対応できているが、ケースによる。・長期休暇中に集落独自の企画をしているところもあるが普段から子どもが集まれる場所は少ない。
課題	≪次年度以降の課題など≫ ・見守る側も見守られる側も心地よい環境づくりができるか。 ・放課後〜親の帰宅まで子どもが気軽に集まれる場所があるか。 ・集落や地域で安心して遊べる場や雰囲気づくりができるか。	

記入日 H29.7.18

基本目標 2. 笑顔あふれる地域をつくる

取り組み 5. 地域で集える場づくり

具体的な取り組み

■気軽に集える環境づくり

	・地域づくり協議会や公民館での企画を中心に集まっている。
	・カフェを始めた。
	他のところでやっているカフェをしてみたい。
	・普段から気軽に集える場所はない。
意	・どの年代が集まるのか実態把握が難しい。
見など	・趣味の仲間で体育館を借りて定期的に活動している。
ど	・こども食堂ってどうなの?
	・目的がないと集まるといっても集まらない。
	サロンをしているがいろいろ課題も負担もある。
	・今の子どもは集まるというより、塾や習い事等で忙しい。
	・子どもの代弁者である親世代の意見を言える場が少ない。

実感度	47.7%	≪考察≫・集まる場所=高齢者のサロンのイメージがある。・公民館や集会所を中心にカフェを始めるなどの動きが出てきた。・子ども(放課後)や親が集まれる場所が少ない。・公民館等公共の施設ではなく、個々で集まっている。
課題	≪次年度以降の課題など≫ ・既存の形式にとらわれない新しいサロンのやり方を検討。 ・子どもやその親が気軽に集う場ができないか。	

記入日 H29.7.18

基本目標 3. みんなの思い、やさしさをつなぐ

取り組み 6. 人と人との出会いの支援

- ■将来を担う世代の婚活支援
- ■空き家を活かした人と人との出会いの場づくり

・相談者は多いが、結婚までの実績がない。 ・とくかくいろいろな情報がほしい。 ・婚活イベントのスタッフとして協力した。 ・若狭町商工会からも誘いがあった。 ・婚活はメンバーが固定化している感があるし、真剣に来る人と遊び気分で来る人がいる。 ・婚活しても口コミが大事だと思う。 ・空き家をなかなか婚活には活かせない。 ・ふるサポと協力し若い世代も集まれるような場所にしてみては。・婚活イベントに人を集めるのに苦労する。婚活イベントとしてするのではなく、若い世代も楽しめる企画をすることで自然に出会いの場所を提供することになるのでは。 ・男性従業員に未婚者が多いので、婚活イベントなど開催するときは声をかけてほしい。

実感度		《考察》	
		・活動はしているがなかなか結果が出ていない様子。	
	22.2%	・地域や集落でも大切さは分かっているが、何か活	
度	·	動をしているわけではない	
		・活動している当事者以外は浸透していない。	
	≪次年度以降	降の課題など≫	
課題	・婦人福祉協議会だけでなく、他機関を含め集落や地域が積極的		
,CZ	に取り組む	ことが必要。	

記入日 H29.7.18

基本目標 3. みんなの思い、やさしさをつなぐ

取り組み 7. ボランティア活動の活性化

- ■ボランティアの質を上げるための定期的な研修会を実施
- ■ニーズに沿ったボランティアコーディネートの機能強化

	・運転ボランティアをしているが、集落で車イスの使い方の講習
	をしたことがある。
	・災害に備えた訓練をしているし、災害があるとボランティアに
	行っている。
1	・ボランティアの呼びかけはしていても、個々の判断によるため
意見	強制はできない。
ない	・どんなボランティアが必要か出してほしい。
۷	・災害ボランティアに比べ、日常でのボランティアに対する意識
	が低いように思う。
	一概にボランティアといっても何をすればいいのか。
	・なかなかボランティアがいないのが現状。
	当て職はすべてボランティアのようなもの。

実感度	56.4%	≪考察≫・近年災害ボランティアの意識が高くなった。・どこにどんなボランティアが必要か把握して広報すべき。・日常のボランティアはイメージしにくいため、何をしたらいいのか分からない。	
課		降の課題など≫ 発掘と登録者とのマッチングをする。	
題	・わかりやすいボランティア情報の提供をする。・学校等でのボランティア啓発をする。		

記入日 H29.7.18

基本目標 3. みんなの思い、やさしさをつなぐ

取り組み 8. 障がい者就労支援ネットワークの強化

具体的な取り組み

- ■障がい者雇用の現状と制度やしくみについての知る機会の提供
- ■働きたいのに働けない人への就労に関する支援

- ・三方駅を含め、地域の理解もあり最近よく頑張っていると思う。
- ・障がい者雇用の現状を把握していない。
- いろいろ働いている場を見かけるようになってきたと思う。

実	47.1%	≪考察≫
		・実際に支援に携わっている関係機関や学校は実感
		しているが、集落や住民はあまり実感がない。
実感度		・働く場がある地域や集落の人は実感している。
		・以前に比べると働く場も増えて、その姿を見かけ
		るようになってきた。
	≪次年度以	降の課題など≫
≑ ⊞	少しずつ値	めく場も増えているが、工賃向上には限界があること。
課題	・関係機関	等の連携はできてきたが、就労へ繋ぐことや繋いだ後
,_	のフォロ	

記入日 H29.7.18

基本目標 3. みんなの思い、やさしさをつなぐ

取り組み 9. 地域の社会資源を活かしたネットワークづくり

- ■地域の社会資源の発掘および整理
- ■社会資源を活用するための地域・企業・各団体の連携強化

意	・福祉資源を含めたマップを作成している。
見	・すべての社会資源を把握は難しいが、活用できるものがあれば。
など	・すべての社会資源を把握は難しいが、活用できるものがあれば。・社会資源という言葉がピンときていない。

実感度	26.5%	≪考察≫ ・福祉マップの作成は地域や集落によっては進んできた。 ・社会資源の言葉を含めた理解不足。
課題	・どこにどん	条の課題など≫ んな社会資源があるのかを把握する。 と地域や集落がどのように絡んでいけるかを知る。

記入日 H29.7.18

基本目標 3. みんなの思い、やさしさをつなぐ

取り組み 10. 伝統行事の継承

- ■地域の伝統の大切さの次世代への伝承
- ■時代に合った伝統行事の見直し

	・祭りの日は当該集落の児童を早めに帰宅させて祭りに参加させ
	ている。
	・祭りから引退した中学生にも参加してもらって、なんとか存続
**	させている。
意見	・成人してから覚えていた囃子を中学生に覚えさせている。
など	・今は部活や行事で参加できないが大人になったら参加する。
2	・時代に合ったというより今できることしかできない。
	・だんだん簡略化してきている。
	・日を固定ではなく、○月第2日曜のように、曜日を固定した。
	・集落役員に若いうちから入り、神事等にも出てもらっている。

実感度	72.4%	≪考察≫ ・子どもや後継者が少ない環境でも、集落なりに対策を練って実施している。 ・若いうちから集落に関われるよう検討している。
課題	≪次年度以降の課題など≫ ・集落に合わせた実施方法を検討する。 ・伝統文化や行事の PR を集落からしていく。	

記入日 H29.7.18

基本目標 4. ひとりひとりの幸せを支える 取り組み 11. 障がい者についての理解

具体的な取り組み

- ■住民と障がいのある方が交流できる機会づくり
- ■障がいがあっても地元で過ごしやすい環境づくり

・特別支援学校と交流したり講演したりしている。 ・地域のイベントに参加させてもらっている。 ・そのような場に参加する機会がない。 ・障がいのある方が何を望んでいるのか把握した上で、検討してみたい。 ・特別に気を遣うことなく接している。 ・特別支援学級、特別支援学校というだけで、偏見はまだまだ根強い。 ・障がいを持つ人も家族も生きやすくなったし、居場所もできたが、偏見や障がい者を下に見る仕組みは変わっていないと思うことがある。 ・見た目で分からない障がいについては理解が難しい。

実感度	36.8%	≪考察≫・障がいについての理解は進んできているが偏見はある。・内面の障がいについては理解不足。・近くに障がいを持った人がいないと理解しづらい。
課題		降の課題など≫ 或、学校等で障がいについての理解を深めること。

記入日 H29.7.18

基本目標 4. ひとりひとりの幸せを支える 取り組み 12. 充実した送迎体制づくり

- ■使いやすい送迎体制の検討
- ■各種送迎サービスの情報共有

	・買い物ボランティア活動中。
	・ハーツが買い物送迎してくれる。
**	・デマンドタクシーの利用促進。
意見など	・利用者の声を広報や情報誌に上げたらどうか。
	・サロン等で 10 人前後で自由に使える車両はないか。
	・利用が少なくても集落を巡回する車両があれば嬉しい。
	・民間業者を圧迫しないでほしい。
	・ドライバーの高齢化している。

実感度	38.9%	≪考察≫ ・企業において送迎をするところが出てきた。 ・サロン等で借りたいニーズはある。
課題		锋の課題など≫ 沿って、答えられるものはないか検討する。

記入日 H29.7.18

基本目標 4. ひとりひとりの幸せを支える

取り組み 13. 食を通じた支え合い

具体的な取り組み

- ■新たなサービスを加えた安心安全な食の提供
- ■食事サービスに関する情報の共有

・近隣や親類間で野菜や海産物などおすそ分けをしているし、ちょっとした雑談が楽しい。 ・高齢者向けの弁当と一般の弁当屋と連携できないか。 ・もし災害で孤立してしまうと、食の確保や普段からの隣近所のお付き合いは、かなり重要と思う。 ・おすそ分けして、もし体調が悪くなったりすると不安。お返しもしないといけないし気を遣うのはちょっと・・。 ・ハーツが移動販売や買い物送迎をしてくれるようになった。・昔に比べ宅配も充実しているが移動販売は少ない。 ・どの年代も共通して話ができる話題が『食』

実感度	32.0%	≪考察≫ ・弁当を配達する事で、どこにどの様な方が住んでいるか、また地域内でどの様な団体が有るのかが分かる。
課題	2 1 2 2 2 1	锋の課題など≫ 上の連携について、どの様にすればよいか。

記入日 H29.7.18

基本目標 4. ひとりひとりの幸せを支える 取り組み 14. 地域における医療・介護・保健の充実

具体的な取り組み

■地域における医療・介護・保健の提供体制の充実

	・課題意識の醸成は進んでいると感じる。
	・福祉関係者との連携も大事だと思う。
	・大事なのは分かるが、住民が使いやすいように、分かりやすい
	ようにしてほしい。
77.	・今後さらに増えてくると予想される利用者に対し、漏れのない
意見	ようにしてほしい。
など	・地域での見守りを充実させていかないといけないが、何をした
2	らいいのか。
	・現状では体制が充実しているとは思えない。
	・これから何が起きるてくるかという事とが分かれば、今何をし
	ていかないといけないかがなんとなくでも理解できる。
	・行政とも連携をしていきたい。

実感度	42.1%	≪考察≫ ・さらなる医療・介護・保健の連携強化をしていく。 ・地域や集落でできる見守り等の活性化を図る。
課題	地域や集落までよりと	降の課題など≫ 客内において、気がかりな人への見守り等の意識を今 少しでも多く持ってもらう。 ーズに合わせた、各サービスの提供。

記入日 H29.

基本目標 4. ひとりひとりの幸せを支える 取り組み 15. 生活困難者への支援体制づくり

具体的な取り組み

- ■地域住民と専門職が連携できる体制づくり
- ■相談窓口の充実

- ・孤立しないように区役員で話し合っている。
- ・いざとなるとどこに一報を入れるのか。
- なんとなく分かっていても関わらない。
- ・関わるべきだろうが、あまり関わらないようにしている。
- ・パッと見て分かる人と、分からない人がいる。
- ・自業自得な人も結構いると思う。因果応報。

実感度	48.0%	≪考察≫・集落でも福祉関係者や役員を中心に協議をされている様子。・集落内での関わりは薄いと感じる。
課題	・そのようフ	条の課題など≫ な状態になる前の対応が大切で、住民と協働で行政や が一緒に対応できる関係づくりができるか。

記入日 H29.7.18

基本目標 4. ひとりひとりの幸せを支える 取り組み 16. 高齢者の生きがいづくり

- ■地域住民が負担に感じないサロン運営方法の検討
- ■高齢者の趣味や特技を活かすことのできる場づくり

	・サロンにきて楽しんでいる。
	・楽しく過ごせるのもサロン世話人さんのおかげ。
	・地域づくり協議会として老人会に協力している。
	・地域の達人人材バンクを作成している。
意見など	・集落によって考え方に差がある。
ない	・サロン希望者がいても、世話人不足。
2	・活動メニューを考えるのがおっくう。
	・元気な高齢者の活躍の場を与えるといい。
	- ・新しいサロン運営までもいかない。
	・同じ趣味を持った人が少ないので、いつも同じ人といる。

実感度	54.2%	≪考察≫・サロンの運営にはどこの集落も苦慮している様子。・世話人によってはいろいろ企画する人もいるが、後継者が不安に感じている。・活躍できる場を創出できるといい。
課題	・負担の無い	降の課題など≫ ハサロン運営と言っても、個々によって感じ方が違う が負担なのか表せないか。

記入日 H29.

基本目標 4. ひとりひとりの幸せを支える

取り組み 17. 小地域活動の活性化

- ■集落と地域に密着している事業所(施設)との繋がりの強化
- ■集落の魅力を実感できる地域づくり

意見など	・集落内の交流促進をしていきたい。
	イベント等の後援があればいい。
	・行事があれば積極的に参加している。
	・子どもたちに集落周辺の自然体験をさせている。
	・地元の小規模事業所と交流している。
	・集落での活動はすべてボランティアだと思う。外部から来るこ
	とはない。
	・企画はいろいろあるが実現できるのか未知数。

実感度	40.0%	≪考察≫ ・独自の活動でそれぞれに魅力を実感している。
課題	≪次年度以降の課題など≫ ・集落に合った活動を今後も事業所等と一緒に継続していける か。	

記入日 H29.7.18

基本目標 4. ひとりひとりの幸せを支える 取り組み 18. 災害に備えた環境づくり

具体的な取り組み

- ■非常時の連携を平常時から確認できる関係づくり
- ■地域における災害時要援護者への理解促進

・災害に対する考えは強くなっている。 ・見守りマップの作成をしている。 ・防災訓練をやっているが参加するのは元気な人で、寝たきりの方や高齢者など、出てこれない人をどうするか。 ・訓練をしても有事の際には動けるのか不安。 ・原子力災害に備え避難先への視察をした。 ・継続した訓練が必要。 ・自主防災組織への支援の充実を。 ・期待されることと実際できることで住民と相違がある。 ・連携が取れているとは言い難い。 ・複雑多様化する災害には、県や市町村の境界を越えた広域的な連携、協力体制の整備が必要。

実感度	77.3%	≪考察≫・自然災害の増加により、災害についてはどの集落も真剣に考えている。	
課題	≪次年度以降の課題など≫ ・継続した協議の場を作れるか。 ・普段から協力できる体制づくりができるか。		